

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】令和 2 年 9 月 10 日 (2020.9.10)

【公開番号】特開 2018-30576 (P2018-30576A)
 【公開日】平成 30 年 3 月 1 日 (2018.3.1)
 【年通号数】公開・登録公報 2018-008
 【出願番号】特願 2017-157385 (P2017-157385)
 【国際特許分類】

B 6 0 H 1/32 (2006.01)

【F I】

B 6 0 H 1/32 6 2 3 S
 B 6 0 H 1/32 6 2 3 L
 B 6 0 H 1/32 6 2 3 Z

【手続補正書】
 【提出日】令和 2 年 7 月 28 日 (2020.7.28)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 6】

H V A C システム 2 0 0 は空調 (A C) システム 2 1 0 を含むことができる。A C システムは、ピークル 1 0 0 の少なくとも一部のための冷房及び／又は湿度調節を可能にする任意の構成を有することができる。1 又はそれよりも多くの構成では、A C システム 2 1 0 は、冷媒 (図示しない)、コンプレッサ 2 1 2、コンデンサ 2 1 4、エバポレータ 2 1 6、及び／又は、膨張弁 2 1 8 を含むことができる。更に、A C システム 2 1 0 は、図 1 に示される要素に対し追加の要素を有することができる。いくつかの構成では、A C システム 2 1 0 は、図 1 に示される要素のうちの 1 又はそれよりも多くを含まないかもしれない。A C システム 2 1 0 の種々の要素は、任意の適切な仕方で配置されることができ、かつ／又は、任意の適切な仕方で互いに作動可能に接続されることができる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 0
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 0】

H V A C システム 2 0 0 は、1 又はそれよりも多くのタイプのデータを記憶するための 1 又はそれよりも多くのデータ記憶部 2 6 0 を含むことができる。データ記憶部 2 6 0 は、揮発性及び／又は不揮発性メモリを含むことができる。適切なデータ記憶部 2 6 0 の例には、R A M (ランダムアクセスメモリ)、フラッシュメモリ、R O M (リードオンリメモリ)、P R O M (プログラマブルリードオンリメモリ)、E P R O M (消去可能なプログラマブルリードオンリメモリ)、E E P R O M (電氣的に消去可能なプログラマブルリードオンリメモリ)、レジスタ、磁気ディスク、光ディスク、ハードドライブ、もしくは、任意の他の適切な記憶媒体、又は、これらの組み合わせが含まれる。データ記憶部 2 6 0 は、コントローラ (1 又は複数) 2 5 0 のコンポーネントであることができ、又は、データ記憶部 2 6 0 は、コントローラ (1 又は複数) 2 5 0 による使用のためにコントローラ (1 又は複数) 2 5 0 に作動可能に接続されることができる。本記載全体を通じて使用されるように、用語「作動可能に接続される」は、直接的又は間接的な接続 (直接的な物

理的接触なしでの接続を含む)を含むことができる。1又はそれよりも多くの構成では、データ記憶部(1又は複数)260は、コントローラ250がHVACシステム200の1又はそれよりも多くの要素を作動させるのを可能にする命令を含むことができる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

再循環モード空気源制御が高エンジン水温に基づいて起動されると判別されると、方法400はブロック408に続くことができる。ブロック408では、燃料増量制御がオンであるかが判別されることができる。燃料増量制御がオンであると判別されると、低下されたデューティマップに従ってコンプレッサが作動されることができる(ブロック410)。例えば、図5に示される第2のデューティマップ540でもってコンプレッサ212が作動されることができる。燃料増量制御がオンでないと判別されると、方法400はブロック412に続くことができる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

ブロック412では、高エンジンオイル温度が検出されたかが判別されることができる。1又はそれよりも多くの構成では、エンジンオイル温度があらかじめ定められたエンジンオイル温度値よりも高いと、高エンジンオイル温度が検出されることができる。高エンジンオイル温度が検出されたと判別されると、低下されたデューティマップに従ってコンプレッサが作動されることができる(ブロック414)。例えば、図5に示される第2のデューティマップ540でもってコンプレッサ212が作動されることができる。高エンジンオイル温度が検出されないと判別されると、方法400はブロック416に続くことができる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

ブロック416では、高トランスミッションオイル温度が検出されたかが判別されることができる。1又はそれよりも多くの構成では、トランスミッションオイル温度があらかじめ定められたトランスミッションオイル温度値よりも高いと、高トランスミッションオイル温度が検出されることができる。高トランスミッションオイル温度が検出されたと判別されると、低下されたデューティマップに従ってコンプレッサが作動されることができる(ブロック418)。例えば、図5に示される第2のデューティマップ540でもってコンプレッサ212が作動されることができる。高トランスミッションオイル温度が検出されないと判別されると、方法400はブロック420に続くことができる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0058

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0058】

ブロック 4 2 0 では、高排気ガス温度が検出されたかが判別されることができる。1 又はそれよりも多くの構成では、排気ガス温度があらかじめ定められた排気ガス温度値よりも高いと、高排気ガス温度が検出されることができる。高排気ガス温度が検出されたと判別されると、低下されたデューティマップに従ってコンプレッサが作動されることができる（ブロック 4 2 2）。例えば、図 5 に示される第 2 のデューティマップ 5 4 0 でもってコンプレッサ 2 1 2 が作動されることができる。高排気ガス温度が検出されないと判別されると、通常のデューティマップに従ってコンプレッサ 2 1 2 が作動されることができる。例えば、図 5 に示される第 1 のデューティマップ 5 3 0 でもってコンプレッサ 2 1 2 が作動されることができる。方法 4 0 0 は終了することができる。代替的には、方法 4 0 0 はブロック 4 0 2 に戻ることができる。